

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年11月8日 NO.56

オー君 「この前、カエデ・マツ・モミ、などは、種（たね）に翼（つばさ）とおもりがついていて、『くるくる』と飛（と）んでいくんだよね。」

花ちゃん 「それから、校長先生は、『スーイ・スーイ』と飛んでいくものも見せてくれたわ。」

オー君 「そうでしたね。『ハネフクベ』と言うそうですね。」



花ちゃん 「とってもあったかい熱帯（ねったい）のニューギニアやインドネシア、フィリピンなどにあるらしいわ。」

オー君 「ウリ科の植物で、世界最大の翼をもつ種子（しゅし）で、100m以上も、『スーイ・スーイ』と飛ぶそうだね。」

花ちゃん 「ハネフクベって、わたし、初めて聞く名前だわ。」

モンタ博士 「このハネフクベは、またの名前を、ヒョウタンカズラとか、アルソミトラと言うんだ。その昔、ドイツのエトリッヒと友人のウエルズは、このハネフクベの種子を手に入れ、その飛ぶすがたを研究（けんきゅう）し、グライダーを開発（かいはつ）したとも言われているんだ。そして、飛行機やステルス戦闘機（せんとうき）のヒントにもなったのさ。」

オー君 「へえー、初耳（はつみみ）ですね。」

モンタ博士 「このハネフクベは、東京では、目黒（めぐろ）の教育自然園に行けば、実物

(じつぶん)が見られるよ。それに、大阪の自然史博物館にもあるらしい。インドネシアに行くと、お土産として、1つ100円くらいで売っているらしいよ。モンタ博士のものは、あるお友達からもらったもので、モンタ博士の宝物さ。」

花ちゃん 「本物って、ずいぶんとうすい感じですね。」(校長室前に展示中(てんじちゅう))

モンタ博士「よくできているだろう。自然は偉大(いだい)な芸術家(げいじゅつか)さ。」

オー君 「自然は偉大な芸術家……。な—るほど、わかるような気がしますね。」

花ちゃん 「自然もすごいけど、もっとすごいのは、このハネフクベの飛ぶようすから、グライダーを考えた人間だね。人類(じんるい)の知恵(ちえ)というか、英知(えいち)というか……。本当にすばらしいですね。」

モンタ博士「そうだね。あのカワセミのくちばしのようすから、新幹線(しんかんせん)の先頭(せんとう)の形を考えたそうだよ。」

オー君 「水に入る時の抵抗(ていこう)が少ないということですね。」

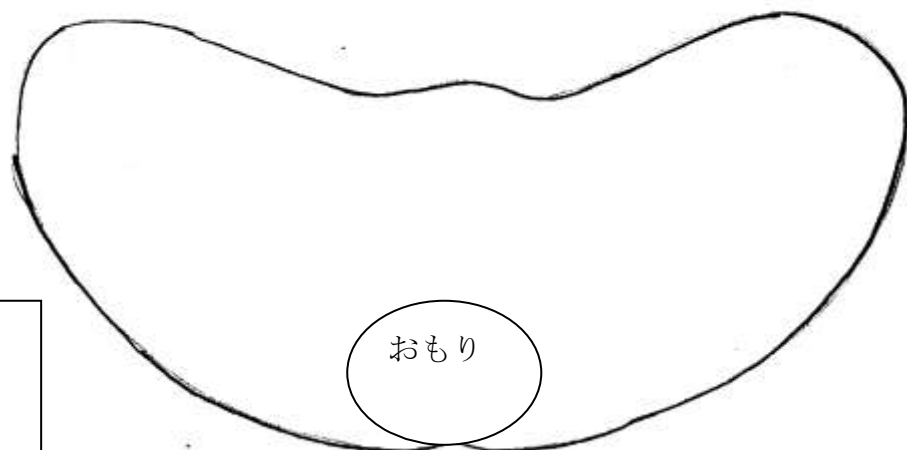
モンタ博士「そうだよ。あのフクロウの毛の先のようすから、パンタグラフの音を消すことを考えたそうだよ。」

花ちゃん 「毛の先が細かいことで、風の音を弱くするということですね。」

モンタ博士「でもね、おどろいているばかりじゃつまらないから、なんとか、これと同じようなものが作れないかと、いろいろ考えてみようよ。」

オー君 「そうか！下の型に合わせてハサミで切って、おもりつければいいんだ。」

花ちゃん 「いろいろな紙でやったり、拡大(かくだい)縮小(しゅくしょう)したり、おもりの大きさを変えたりしたら、おもしろいかもね。」



日本最大のカエデの  
メグスリノキの種子が  
ほしい人は校長室へ！  
先着50名ですよ。